



Consulado Geral do Japão
em Curitiba

令和6年春の叙勲

令和6年4月29日

在クリチバ日本国総領事館

令和6年4月29日、日本政府は、令和6年春の邦人及び外国人叙勲受章者を発表し、この中で以下3名の叙勲が公表されましたのでお知らせします。

1 尾中 弘考 (Hirotaka Onaka)

・賞賜： 旭日単光章

・功績概要： 尾中氏は、平成3年以降、歴代最長となる計約11年（計12回）にわたりラーモス日伯文化協会会長を務め、ラーモス移住地が所在するサンタカタリーナ州フレイロジェリオ市周辺地域を中心に、日本文化、日本的価値の継承及び普及に貢献した。また、移住当初から、農業の成功には日本の心を理解することも必要との考えを持ち、高校在学時に学んだ剣道の指導を熱心に行い、現在も日系・非日系を問わずブラジル全国レベルでその普及に努めている。昭和61年には、同移住地内にブラジル唯一の本格的な剣道場「文武館」を竣工させ、日本式の礼儀、敬意等の発信の拠点となっている。

尾中氏の出身地が「吉野の桜」で知られていたこともあり、約30年前から、ラーモス日伯文化協会会館が所在する土地を「桜公園」とするべく、自身で栽培した桜の苗を植えはじめ、日本的な美しい景観の整備、維持に努めている。さらに、フレイロジェリオ市内等の主要道路沿いに土地を持つ農家に桜の苗を寄贈し、ラーモス移住地へ続く道に桜を植えることを勧め、地域を日本的な景観をもって美しくする活動に従事してきた。パラナ州クリチバ市とパラナ日伯商工会議所が連携して進めている桜植樹事業に対し、数百本規模の桜の苗の寄贈も行っている。

・主要経歴： 元ラーモス日伯文化協会会長

2 上口 寛 (Hiroshi Kamiguchi)

・賞賜： 旭日双光章

・功績概要： 上口氏は、平成2年以降、パラナ州のマウア文化体育協会で複数の役員を歴任した後、平成10年から2年にわたり会長を務めた。同協会会長を退任した後も、協会活動の支援を続け、同市日系社会の厚い信頼を得ていたところ、パラナ州の日系団体を束ねるパラナ日伯文化連合会（アリアンサ）会長に推薦され、平成29年に就任した。その後、6年以上にわたり、アリアンサの会長及び評議会会長を歴任し、パラナ州における日系社会の地位向上、日本文化の伝承・普及等の促進に尽力した。



Consulado Geral do Japão
em Curitiba

また、上口氏は、アリアンサの会長に就任した際、平成30年の日本人のブラジル移住110周年を成功裡に祝賀することが自身の使命であると認識し、「日本人ブラジル移住110周年パラナ州祭典委員会」を発足させるとともに、自ら委員長に就任した。同氏は、アリアンサ会長兼パラナ州祭典委員長として、パラナ州政府、州内の各自治体、州内各地の日系社会、有識者、企業等に対して積極的に協力を呼びかけた。こうした上口氏の貢献により、パラナ州日系社会は一致団結して移住110周年式典等を無事に開催することができた。

- ・ 主要経歴： 元マウア文化体育協会会長、元パラナ日伯文化連合会会長

3 アンтониオ テルオ カトウ (Antonio Teruo Kato)

- ・ 賞賜： 旭日双光章

- ・ 功績概要： カトウ氏は、パラナ州パラナヴァイ市長として市内の学校で日本的価値の浸透等を通じて教育の質の向上に取り組むと、ブラジル全国の市長から5名のみが選出される「市長・児童賞」を2年連続で受賞し、パラナ州における日系社会の地位向上、親日感の醸成に貢献した。その後、カトウ氏の取り組みが基礎となり、パラナヴァイ市と愛知県豊橋市の間で教育交流が開始されると、同氏はパラナ州議会議員として二度豊橋市を訪問し、同交流の継続に勢いをつけた。

さらに、カトウ氏はパラナ州議会議員として、平成19年に同州議会における「日本人のブラジル移住99周年を記念する式典」の開催を他の日系議員と共に提案し、翌年、同100周年の機に皇太子殿下がパラナ州を御訪問された際、日系社会を代表して謁見したほか、平成25年には、同州議会における同105周年記念式典の開催を単独提案して実現を主導した。また、パラナ州議として3度にわたり訪日経済ミッションに参加し、両国経済関係の強化にも尽力した。

令和5年末までの2年間は、パラナヴァイ体育文化協会会長として、コロナ禍後初となる「パラナヴァイ春祭り」を取り仕切り、同市日系社会の活性化、日本文化の継承及び発信に努めた。

- ・ 主要経歴： 元パラナヴァイ市長、元パラナ州議会議員、元パラナヴァイ体育文化協会会長